

OMEPP(世界幼児保育・教育機構) 世界大会開催にむけて

畠中 徳子

はじめに

来る八月一日から四日まで、パシフィコ横浜で、アジアで初めてのOMEPP世界大会が開催される。この世界大会が間近に迫った現在、日本の幼児保育・教育関係者が総力をあげてこの大会を成功させるために日夜努力をしているといっても過言ではないだろう。津守真大会会長のもと、保育所、幼稚園の現場で働く保育者、園長、

幼児教育の研究者、保育者養成にかかわる大学の教員等多くのOMEPPの個人会員をはじめ、保育所、幼稚園、その他の幼児保育・教育の団体や組織の代表が一堂に会して、これほど熱心に討議したことがかつてあっただろうか。

奇しくも今年一九九五年は、第二次世界大戦が終了して、五十年目にあたる。OMEPPは、第二次世界大戦後

のヨーロッパで戦争の被害を蒙った多くの子ども、とりわけ就学前の子どもたちの問題に心を痛めた人々が力を合わせ、この問題に立ち向かおうとしてつくられた国際組織である。

OME Pは英国のレディ・アレン、スウェーデンのアルバ・ミューダールらによって、一九四八年に創立された。創立時にはアンリ・ワロンなども参加している。OME Pは創立当初からユネスコと強いつながりがあり、ユネスコが就学前の子どもをカバーできないところから、ユネスコのNGOとして就学前の子どもの問題に取り組んできた。第一回の創立大会がブラハで開かれて以来、今年の第二十一回大会に至るまで一貫して子どもの基本的な権利にかかわるテーマをかかげ、世界の幼児保育・教育に携わる人々が知恵を出し合っている。一九八九年国連で成立した「子どもの権利に関する条約」についても、その成立の過程でOME Pは国連に対して様々な提言を行い、条約の成立にむけて運動をしてきた。このようにOME Pは常に世界の子ども、特に乳幼児の人

権を守ることもおよび保育・教育の質の改善を目指して、保育者、保育者養成に携わる人、研究者、行政官等が対等な立場で一体となり、実践し、研究し、運動を進める個人も団体もふくめた組織である。

日本は、一九六八年にOME Pに正式に加入し、日本委員会には現在、荘司雅子名誉会長、津守真会長の下、個人会員の他、日本保育学会、全日本私立幼稚園連合会、全国国公立幼稚園長会、全国私立保育園連盟、全国社会福祉協議会・全国保育協議会、日本保育協会、日本私立短期大学協会保育科研究委員会、全国保母養成協議会、全国幼稚園教育研究協議会、全国国立大学付属学校連盟幼稚園部会、キリスト教保育連盟、日本仏教保育協会、東京都私立幼稚園連合会、東京都神社保育団体連合会、東京幼児教育協議会、保育研究所、幼少児国際教育交流協会、幼少年教育研究所、以上十八団体が加盟している。また、今回の世界大会が神奈川県・横浜市で開催されることから、地元の幼稚園、保育所、養成校等の団体の協力を得て世界大会の運営にあたっている。

世界大会のテーマについて

OME P日本委員会は第二十一回世界大会のテーマを『いま、人間を育てる―子ども時代の充実に向けて―』に決定した。このテーマについて、OME Pのパンフレットに次のように解説している。

「人間性を脅かす現代の環境にあって、この課題にいかにも挑戦するかは、幼児保育・教育の中心課題です。子どもたちひとり、ひとりのおかれている環境は、国により、また個々の家庭により、多様に異なっています。しかしどの子どもも人間として、育てることに専念する大人を必要としていることに変わりありません。

社会がますます複雑化し、環境の悪化が進んでいる現在、私たちは幼い子どもたちのために働く保育者、また関連する専門職として、子どもたちが本当に必要としているニーズに応える仕事と責任を問い直すことが求められています。」

さらにテーマを三本の柱に分け、またその柱にそって、分科会(*)を設けている。

①現代の環境と子ども

〈いま〉とは、現代の社会の環境のあり方を意味する。

*平和を生み出す文化（平和教育） *戦争・貧困・飢

餓と子ども *情報化社会と子ども *人間性の育ちと

自然 *変容する家族と子ども *多文化社会と子ども

*人間らしい暮らしと社会政策 *エイズと子ども

②子ども時代の充実にむけて

〈人間を〉―豊かな人間性が育つには、ひとりひとりの子どもが、子ども時代を充実して生きることが必要であり、そのためには子どもの権利の内実を捉え直さなければならぬ。

*子どもの権利 *子どもの発達 *子どもの栄養と健

康 *子どもの権利としての遊び *自由を得るための

言葉と識字 *子どもへの虐待 *特別な配慮を必要と

する子どもの保育

③乳幼児保育・教育の質の向上

〈育てる〉―この営みの質を豊かに。保育・教育の内容

・方法を改善するあり方をさぐる。

*子どもと大人の関係 *子育て文化 *創造的学習としての遊び *カリキュラムと指導法 *人間の精神の輝きを育てる美術・音楽・文学 *保育者、その他の専門家・準専門家の養成 *子育て支援の施策・行政 *親と保育者・専門家の協力

プログラムの主なものについて

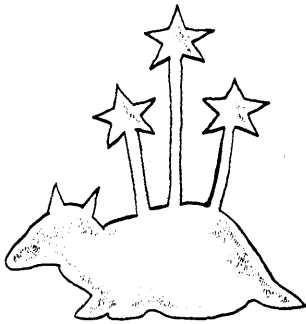
プログラムはテーマにそって、分科会が作られるが、ハイライトとしては基調講演、講演、シンポジウム、世界で特に戦争などにより子どもたちが被害をうけている地域からの緊急報告等がある。これらは同時通訳が用意されている。(敬称略)

〈基調講演〉

☆パウロ・フレイレ (ブラジル、サンパウロ・カトリック大学教授)

世界的に著名な教育思想家で識字教育の実践者。一九五〇年代から六〇年代にかけて、ブラジルで成人の識字教育にとりくみ、世界的に注目をあびるが、六四年の軍

事クーデターで投獄され、その後亡命し、チリ、ギニア、モザンビーク、アンゴラ等で識字運動に従事。その後、ブラジルへの帰国が許される。フレイレの識字とは単に文字を獲得することではなく、人が、人・物・世界



と主体的にかかわって生きることを意味する。しかし現代の学校教育はともすると単なる文字文化の伝達と普及に陥っており、彼のいう銀行型の教育になっている。生徒の頭は空の金庫のようなものであり、それを教師が沢山の知識で満たす。一方、対話を重視する教育は教師と生徒は共に現実の世界に向き合い、課題を発見し、探究する。文化はこのような人間関係のうちに創造されていく。フレイレの教育思想は識字率の低い第三世界に大きな影響を与えているが、高度な情報社会に生きている私たちにとても教育への根源的な問いかけを迫られるであらう。著書『被抑圧者の教育学』『伝達か対話か』『自由のための文化行動』（いずれも亜紀書房）

☆ヌーリア・ルマウーン（アルジェリア、オラン大学教授、社会・文化人類学研究センター所長）

イスラム圏の家族・社会研究者。講演のテーマは「アルジェリアにおける遊びの空間としての通りと子ども」。アルジェリアの子どもたちが大勢通りに出ているのは何故か。禁止事項や体罰の多い家庭から抜け出している

「ザンカ」と呼ばれる通りを遊びと自由の空間として自分たちのものとしてしまうためなのである。イスラム文化圏の子どもと生活と遊びの専門的な研究報告はOME Pでも初めてである。

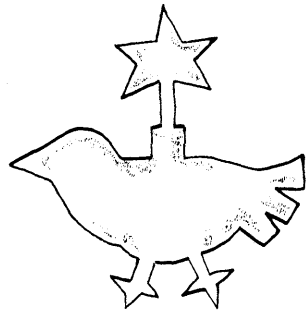
☆ステファン・ルイス（カナダ、元カナダ国連大使、現在ユニセフ特別代表）

世界の子どもたち、特に発展途上国の子どもたちの権利とニーズの代弁者として世界的に活躍している。国連ガリ事務総長の信頼が厚く、九月に北京で開かれる「国連婦人会議」の特別顧問として助言する予定である。

〈シンポジウム〉

☆「幼児保育・教育の質とカリキュラム」（企画者…A・カーティス）

幼児保育・教育の量から質への転換は、先進国に共通する課題である。この課題に取り組んでいる国々の代表が自らの実践を報告する。企画者はヨーロッパ担当副総裁であり、OME Pの機関誌の編集長でE Cの保育問題の指導者として活躍している。



乳幼児をもつ親たちをどのように支援するか、特に行政の支援策は何か、世界の保育行政担当者の取り組みの報告等がある。企画者はOMEPの総裁で、カナダ・ケベック州の教育省の行政官である。日本でも保育の支援策をめくり、様々な論議が起こっている今日、支援のあり方が提起される。

☆「アジアの子どもたちは、いま」（企画者：土山牧 羔）

世界の人口の半数を占めるアジアは、今、目覚ましい経済発展を遂げようとしている。経済、社会が変化するなかで、子どもはどのような状況におかれているのか？アジアで初めて開かれるOMEP世界大会であり、アジアの保育問題の理解を深める良い機会である。企画者はアジア・太平洋地域担当副総裁。

☆「社会変化の時代の子育て支援行政」（企画者：C・ピノー）

女性の社会進出に伴う働く母親の増加は世界的な傾向である。子育てをめぐる現代の環境の変化に対応して、

Pデンマーク委員会

「二十世紀は子どもの世紀」で幕開けしてから「子どもの権利条約」まで、今世紀が子どもにとってどんな時代

であったのか。この真摯な検討と反省の上に立ってほめて、来るべき二十一世紀が展望できる。エレン・ケイに立ち返り、また、今日の子どもの問題を検証しつつ、二十一世紀にむけて提言する。このシンポジウムは次回二十二回世界大会を主催する北欧五か国を代表して、デンマーク委員会が企画し、次回にも引き継がれる。

〈緊急報告、講演〉

緊急報告：世界各地で起こっている民族紛争、戦争、飢餓、貧困等で脅かされている子どもたちの問題について、実際それらの問題の対処にあたっている人々の報告。コロンビアのバードレ・ザビエル・ニコロはコロンビアのストリート・チルドレンと関わって画期的な仕事をしている。北アイルランドから、B・ルディ。国連難民高等弁務官の緒方貞子（交渉中）他。

講演：世界の幼児保育・教育、関連領域での専門家による講演。日本保育学会会長の岡田正章が日本の保育・幼児教育を世界からの参加者に紹介する。またネパールの僻地で結核対策等の公衆衛生に力を尽くした岩村昇の

講演がある。更に、OME P元世界総裁で日本とは縁の深いマドレーヌ・グタール女史は、今年の国際寛容年を保育の観点から解説し、OME P前世界総裁エバ・バルケ女史は、遊びについて語る。

〈展示・行事について〉

☆展示：子どもの育ちを祝う世界の伝承儀礼と祭り等各国に呼びかけて、写真や絵など視覚的に構成する。

☆VTRシヨウ：分科会と平行して、世界各国から提供されるビデオの上映。

☆アジア・太平洋子ども歳時記：アジア・太平洋地域の伝承されたわらべうたやお話、歌遊び、現代の創作音楽等を各参加国に呼びかけて披露してもらう。

☆インターナショナル・バザール：OME Pの各委員会が持ち寄る手工芸品、物産等を販売して、OME Pの基金にする催し。

☆施設見学：横浜、神奈川地区の幼稚園、保育所等の施設の見学。（有料）

☆インターナショナルの夕べ（懇親会 有料）：八月三

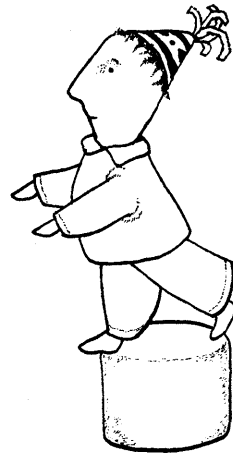
日の夜、横浜港の水川丸の船上での懇親会。民族衣裳
でお国自慢の歌、踊りが披露される。

☆その他の関連行事：OME Pデー：八月一日は横浜市
民、神奈川県民のために基調講演者等による講演会
（無料）がパシフィコ横浜で行われる。

また「世界の人形と育児文化」（横浜人形の家）、「世
界の子どもの絵画表現」（横浜美術館アートギャラ
リー）等の関連行事がある。

以上プログラムの主なものを簡単に紹介させていただ
いた。このOME Pの世界大会には子ども保育・教育
に携わる世界の人々が一人でも多く参加していただける
ように国際会議としては参加費を比較的安くしている。
パシフィコ横浜はみなと未来地区にある日本が誇れる素
晴らしい国際会議場で海に面した眺めのよい場所にあ
る。本誌の読者が一人でも多くご参加いただけるように
願っている。

（立教女学院短期大学・OME P日本委員会理事）



世界大会の問い合わせ先

第二十二回OME P世界大会事務局

〒三三六 浦和市元町一―八―二十一―一〇二

TEL ○四八―八八三―九六七〇

FAX ○四八―八八一―二四二〇